記者発表資料

平成２７年　１月　２８日
津 軽 ダ ム 工 事 事 務 所

第17回 津軽ダム猛禽類検討委員会　審議結果について

津軽ダムでは、「津軽ダム猛禽類検討委員会（委員長：小笠原 暠　秋田大学名誉教授）」を平成１６年７月に設立後、これまで１６回の委員会を開催し、希少猛禽類とダム事業の共存方策を継続して検討・実施してきました。

この度、第１７回津軽ダム猛禽類検討委員会を下記のとおり開催し、平成２６年シーズンの調査結果ならびに平成２７年シーズンに予定している工事の配慮計画等について審議していただきました。

「津軽ダム猛禽類検討委員会」は、今回が最後となり、今後の調査結果等については、昨年、11月に設立した「津軽ダムモニタリング委員会」において、審議していくこととなります。

【開催概要】

■開催日時　　平成２７年1月２８日（水）１４：００～１６：００

■場　　所　　弘前プリンスホテル　２Ｆ　孔雀の間

■審議結果　　別添のとおり

〈発表記者会：弘前市記者会、専門記者会〉

【問い合わせ先】
国土交通省　東北地方整備局　津軽ダム工事事務所
電話　0172-85-3005　FAX 0172-85-3008

調 査 設 計 課 長　遠藤（えんどう）　俊彦（としひこ）　(内線351)
専　　門　　職　木村（きむら）　清隆（きよたか）　(内線350)

第17回 津軽ダム猛禽類検討委員会　出席委員

氏名	所属	役職	備考
東　信行	弘前大学	准教授	
小笠原　暠	秋田大学	名誉教授	委員長
小山　信行	日本野鳥の会　弘前支部	支部長	
関山　房兵	猛禽類生態研究所	所　長	
竹原　明秀	岩手大学	教　授	
宮川　圭司	自然写真家		
由井　正敏	東北鳥類研究所	所　長	

※五十音順

〇第 17 回 津軽ダム猛禽類検討委員会の審議結果（要旨）

１．平成２６年シーズン調査結果

【審議結果】

・ 平成２６年シーズンのモニタリング調査の結果、工事の配慮対象であったクマタカ７つがいのうち４つがいが繁殖に成功した。
・ 同じく工事の配慮対象であったオオタカ１つがいについては、ペアの定着が確認されなかった。近年、同じ猛禽類のノスリがオオタカつがいの営巣林で繁殖しており、営巣環境を巡ってオオタカと競合しているなど、周囲の様々な状況が変化していると考えられる。
・ 今後も引き続き、希少猛禽類の生息環境と繁殖に配慮しながら工事及びモニタリング調査を進めていくこととした。

【主な調査結果】

〇繁殖状況

・ クマタカ４つがいが繁殖に成功し、幼鳥４羽の巣立ちを確認した。

〇クマタカの保護・保全について

・ 工事箇所近傍での繁殖兆候が確認されたクマタカ１つがいを対象に保護・保全の対策を実施し、繁殖成功に至った。
・ 保護・保全の対策は、営巣期間中の工事の一時休止と、工事再開時に段階的に工事量を増加することでクマタカを工事に慣れさせるコンディショニングにより実施した。

〇クマタカとオオタカの人工巣（誘導巣）について

・ これまで、クマタカ２つがい、オオタカ１つがいを対象に、営巣地周辺の環境変化に対する保護・保全として、より離れた場所へ営巣を誘導するため、人工的に作った巣（人工巣：誘導巣）を設置している。
・ 人工巣の繁殖利用については、クマタカ、オオタカとも確認されなかった。

２．平成２７年シーズン配慮計画と調査計画

【審議結果】

- 平成２７年シーズンの配慮計画と調査計画について、了承された。
- なお、今後のモニタリング調査結果により、工事予定箇所付近に営巣が確認された場合には、施工時期を見直すなど十分配慮する必要がある。

【主な配慮計画・調査計画】

- 平成２７年シーズン工事の配慮対象及び調査対象となるつがいは、クマタカ６つがい（工事の収束に伴い、対象つがいが１つ減）、オオタカ１つがいとする。
- 配慮計画は、工事時期・工事着手箇所の調整の他、工事の騒音・振動、建設機械の存在に徐々に慣れさせていくコンディショニングを実施する。
- なお、周辺での工事がなく、配慮対象としなかったクマタカ１つがいについては、工事収束後の繁殖状況と行動圏の変化の有無を把握するためのモニタリング調査を実施し、引き続き調査対象とする。